

モンゴル経済概況 (2013 年 4 月)

2013 年 5 月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL：03-3582-5181

E-mail：ORG@jetro.go.jp

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

アンケート返送先 FAX : 03-3582-5309
e-mail : ORG@jetro.go.jp
日本貿易振興機構 海外調査部 中国北アジア課宛



● ジェトロアンケート ●

調査タイトル：モンゴル経済概況（2013年4月）

今般、ジェトロでは、標記調査を実施いたしました。報告書をお読みになった感想について、是非アンケートにご協力をお願い致します。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきます。

■質問1：今回、本報告書での内容について、どのように思われましたでしょうか？（○をひとつ）

4：役に立った 3：まあ役に立った 2：あまり役に立たなかった 1：役に立たなかった

■質問2：①使用用途、②上記のように判断された理由、③その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

■質問3：今後のジェトロの調査テーマについてご希望等がございましたら、ご記入願います。

■お客様の会社名等をご記入ください。（任意記入）

ご所属	☐ 企業・団体	会社・団体名
	☐ 個人	部署名

※ご提供頂いたお客様の情報については、ジェトロ個人情報保護方針 (<http://www.jetro.go.jp/privacy/>) に基づき、適正に管理運用させていただきます。また、上記のアンケートにご記載いただいた内容については、ジェトロの事業活動の評価及び業務改善、事業フォローアップのために利用いたします。

～ご協力有難うございました～

< 目 次 >

1. 政治・外交動向	1
(1) 国内	1
①【閣議】第 11 回定例閣議	1
②【閣議】第 12 回定例閣議	1
③【閣議】第 13 回定例閣議	2
④【閣議】第 15 回定例閣議	2
(2) 外交・国際	3
①【ベトナム】モンゴル・ベトナム政府間委員会が開催	3
②【インド】モンゴル・インド政府間合同委員会が開催	3
③【日本】安倍晋三首相がモンゴルを公式訪問	3
2. 経済動向	5
(1) マクロ経済	5
①【インフレ・CPI】3月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 9.8 ポイント上昇	5
②【マネーサプライ】M2は前年同期比 19.5%増	6
③【貸付残高】貸付残高は前年同期比 27.7%増、不良債権残高は同 3.6%減	8
④【金利】トゥグルク金利は前月比 0.2 ポイント上昇の 19.1%	9
⑤【財政収支】1～3月の財政収支は 837 億トゥグルクの黒字	10
(2) 貿易・投資	11
①【貿易統計】1～3月の貿易収支は3億 9,580 万ドルの赤字	11
②【外貨準備高】外貨準備高は 33 億 4,760 万ドル	14
③【為替】対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高	14
(3) 産業	15
①【企業登記件数】前年同期比 21.6%増の9万 2,442 社	15
②【不動産】ウランバートル市中心部のアパート価格は前年同期比 13.8%上昇	15
③【建設業】建設・改修業務の受注額(速報値)は前年同期比 18.7%増	15
④【通信業】売上は前年同期比 7.2%増	15
⑤【出入国者数】前年同期比 1.1%減の 83 万 1,000 人	16
3. 社会動向	18
(1) 社会統計	18
①【人口増加】1,000 人当たりの人口純増は 5.3 人	18
②【社会保険・社会福祉】社会保険支出は前年同期比 72.4%増	18
4. 2013 年6～9月の予定	19

(注) 図表の数値は四捨五入しているため、文中で示す数値とは必ずしも一致しない。

1. 政治・外交動向

(1) 国内

①【閣議】第 11 回定例閣議

第 11 回定例閣議が 3 月 2 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

・サインシャンド工業団地の建設プロジェクト

露天掘り鉱山の製品を加工する目的で建設されるサインシャンド工業団地の初期投資および進捗状況の確認を関係省庁の大臣に指示した。また、同工業団地の建設工事の実施、事業活動の調整を担当するサインシャンド工業団地国有会社の株式の 34%以上を政府が、残りを民間企業がそれぞれ所有するよう、持分比率を調整することを工業・農牧業相に指示した。

同プロジェクトに関連して 2013 年に実施される環境アセスメント、居住区域の区画割り、コンサルティングサービスには 141 億トゥグルクを融資することをモンゴル開発銀行に許可した。

・貿易の規制緩和窓口を設置

政府によるビジネス支援に関する政策の枠内で「貿易の規制緩和に関する総合窓口」制度を設け、実施作業の調整を担当する管理委員会の構成員を新たに選任した。

管理委員会は内閣官房長官が委員長を務め、財務副大臣と経済開発副大臣が副委員長として活動する。

管理委員会に対する情報提供等を担当する作業班を、税関庁、IT・郵便・通信庁および関連各庁の専門家らで構成するよう内閣官房長官に指示した。

②【閣議】第 12 回定例閣議

第 12 回定例閣議が 3 月 7 日に開催され、新鉄道、道路建設などのプロジェクトの初期投資をチングス国債（＝「チングスボンド」。外国人投資家向けに発行する国債）から出資することを決定した。

新鉄道プロジェクトに関しては、2013 年度第一期工事に必要な 2 億ドルをチングス国債から開発銀行経由で提供することを許可した。タワントルゴイ～サインシャンド～バローン・オルト～チョイバルサン、ホート～ノムログ、ホート～ビチグト間の約 1,800 キロメートルの鉄道基礎構造物の技術的設計の作成、建設工事の施工業者の選定、オハーホダグ～ガシューンソハイト間の鉄道基礎構造物の建設工事等を行う。

ウランバートル市内の 33 カ所の交差点の改修、トーラ川やセルベ川の堤防沿いに建設する高速道路の初期投資に必要な 2 億ドルの資金も同国債から拠出する。タワントルゴイ鉱山に依拠して建設される 300 メガワット級の発電所プロジェクトについても、2013 年度に必要となる 5,000 万ドルを同国債から拠出することを決定した。

③【閣議】第 13 回定例閣議

第 13 回定例閣議が 3 月 16 日に開催され、戦略的鉱床の製品を市場に流通させる活動を促進することが決定されるとともに関係閣僚に指示が出された。

資源埋蔵量の評価や、鉱山分野で活動する半官半民企業の政府保有株式の売却に助言する役目で設立されたエルデネス MGL 社は、戦略的鉱床や、国家予算で探査し埋蔵量を確定した鉱床の探査権および採掘権を取得している。現在、同社はエルデネス・タワントルゴイ社、エルデネス・オユトルゴイ社を子会社として活動しているほか、シベール・オボーに 4,293 ヘクタールの石炭鉱床の採掘権を有している。

今回の閣議では同社に対して、戦略的鉱床の採掘権を有するエルデネット工業（ロシアとモンゴルの合弁企業）のモンゴル側の株式およびバガノール社、シベール・オボー社の政府保有株式を譲渡することになった。戦略的鉱床に依拠して開発するインフラ整備活動についてもエルデネス MGL 社が担当する。

④【閣議】第 15 回定例閣議

第 15 回定例閣議が 3 月 30 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

・1,400 キロメートルの道路工事をチンギス国債の資金で実施

2013 年内にドルノド、ドルノゴビ、ドンドゴビ、ウムヌゴビ、バヤンホンゴル、フブスグルの 6 県の県庁所在地とウランバートル市を舗装道路で接続することを決定した。道路の総延長は計 1,400 キロメートルで、1 年間に行う道路工事としては過去最長である。

また、2016 年までに全国 21 県すべての県庁所在地とウランバートル市を舗装道路で接続するという政府目標の枠内において、チンギス国債の資金で 2013 年に行われる道路工事および技術的管理に関するリストを可決。道路工事に必要とされる 5,700 億トゥグルグを開発銀行経由で提供することを承認した。

・チンギス国債の 95 億トゥグルグをカシミア生産分野の支援に

モンゴル・ブランドを実現するための主要商品であるカシミアの技術革新を支援する決定が本日の閣議で出された。

カシミア生産分野の技術、設備を革新するプロジェクトに必要とされる財源の 3 分の 1 以下に相当する頭金として、950 億トゥグルグをチンギス国債から提供することを経済開発大臣に指示した。このプロジェクトにより、未加工カシミアの輸出を停止し、付加価値のある輸出製品の生産を増やす。地方に 200 以上の編物および縫製工場が設立され、20 万人の雇用が創出されると見込んでいる。

(2) 外交・国際

①【ベトナム】モンゴル・ベトナム政府間委員会が開催

貿易、経済、科学、技術協力に関するモンゴル・ベトナム政府間委員会の第15回定例会議が3月17～21日、ベトナムのハノイ市で行われた。

モンゴル側会長のバートルガ工業・農牧業大臣と、ベトナム側会長のカウ・ドック・ファット農業農村開発大臣が3月18日に会談し、両国の交流、協力関係について意見交換した。

会談の際、双方は貿易・経済分野における両国の交流関係をさらに拡大すること、および農牧業、工業、教育、科学、文化、スポーツ、インフラ整備の分野における協力を促進することで合意した。

②【インド】モンゴル・インド政府間合同委員会が開催

貿易、経済、科学、技術協力に関するモンゴル・インド政府間協力委員会の第4回定例会議が4月21～22日、インドの首都ニューデリーで行われた。

モンゴル側委員長のガントゥムル教育・科学大臣、インド側委員長のアハメド外務担当国務大臣が会談し、モンゴルにおける情報技術研修、アウトソーシングセンターの設立プロジェクト、インド・モンゴル合弁学校の建設、両国間の航空路の開設およびモンゴル国立大学への専門講師の派遣等の交流・協力関係について意見交換した。

会談の際、双方は貿易・経済分野における両国の交流関係をさらに拡大すること、および農牧業、医療、文化、鉱山分野における協力を促進することで合意した。

また、両国外務省間の協議会を2013年から開始し毎年定期的に行うこと、モンゴルの教員向けの再訓練を実施すること、小規模乳製品工場・農牧業協同組合をモンゴルで開発することなどが新たに考案され、実施について合意した。

③【日本】安倍晋三首相がモンゴルを公式訪問

モンゴルを公式訪問した日本の安倍晋三首相は3月30日、アルタンホヤグ首相と会談し共同声明を発表した。会談は和やかな雰囲気で行われ、アルタンホヤグ首相は「第三の隣国」（モンゴルは、地理的には遠くても、隣国のように近くて重要な国を「第三の隣国」と呼ぶ）である日本との友好・協力関係の発展は、モンゴルにとって政治的に極めて有意義であると述べた。

日本との戦略的パートナーシップや協力の促進は、モンゴル外交政策の最優先課題である。戦略的パートナーシップを社会の全分野において推進すること、特に経済協力を新たな段階に進めることが同会談の目標であった。

アルタンホヤグ首相は、安倍首相が提案した両国の戦略的パートナーシップを（a）自由と民主の精神、（b）平和の精神、（c）助け合いの精神の3つの精神に沿って促進するとの提案を歓迎した。同提案を基に両国関係の促進に協力することを宣言し、両国は戦略的パートナーシップの促進、モンゴルの経済発展に向けた協力を目的とする

「エルチ・イニシアティブ」に沿って協力することになった。そのために、ビジネス、財政、投資の快適な環境、経済的な相互利益、相互補完的協力事業の環境実現のために経済連携協定（EPA）交渉を加速化し、早期に締結することについて合意した。

この他、両国の民間企業の協力関係を支援するための「輸出ローンの可能性を開く協定」の締結や、戦略的パートナーシップの加速化を目的とする中期計画の立案で合意した。同中期計画には、今後４年間で実施される両国首脳の相互訪問のほか、経済協力、具体的には石炭やインフラ整備などの部門におけるプロジェクト、文化、教育、国際的なレベルでの両国の協力の内容について記入することを予定している。また、鉱山分野のみならず、その他の分野への日本の投資を歓迎し、支援することをアルタンホヤグ首相が表明した。

安倍首相は日本の外交政策におけるモンゴルの位置付けが高まっていることを強調し、モンゴルの中長期的な発展目標の実現に対して支援・協力すると表明した。具体的には、研修・診断専門病院の設立、新国際空港の建設、ダルハン市における石油精製工場の建設等に援助・協力することを表明した。

（出所：モンゴル政府官房、モンゴル国会、モンゴル外務省の各ウェブサイト）

2. 経済動向

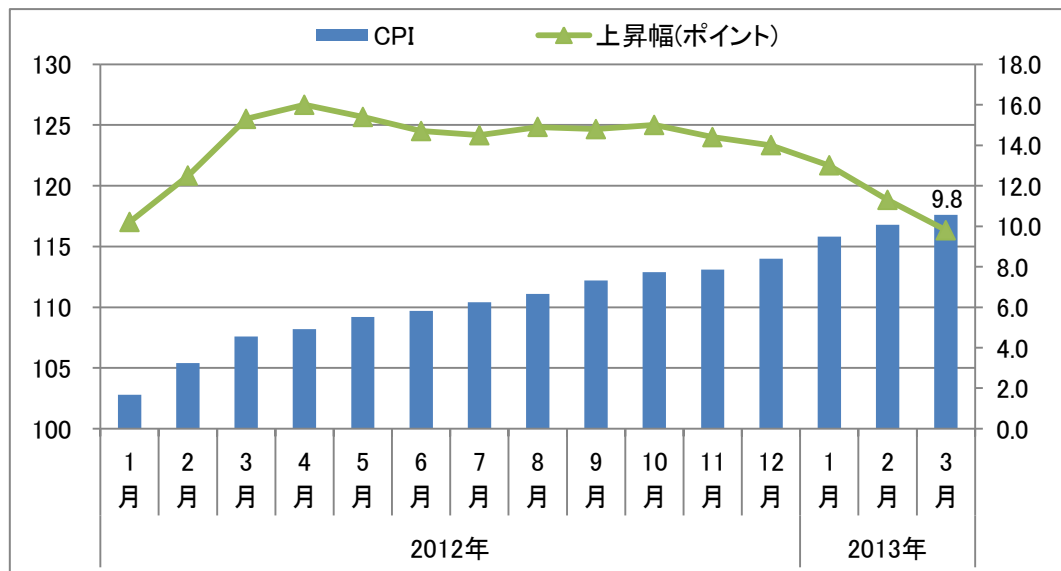
(1) マクロ経済

①【インフレ・CPI】3月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 9.8 ポイント上昇

3月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比で9.8ポイント(前月比では0.8ポイント)上昇した(図1、表1参照)。

品目別では、アルコール・タバコが50.4ポイント、レストラン・ホテルが15.5ポイント、教育が15.2ポイント、被服および履物が13.4ポイント、住居・水道が11.1ポイント、それぞれ前年同月比で上昇した。一方、郵便・通信は同1.0ポイント下落した(表2参照)。

(図1)消費者物価指数(CPI)の推移 (左軸:CPI、右軸:前年同月比上昇幅)



(出所)国家統計局月報

(表1)消費者物価指数(CPI)の推移

	2012 年									2013 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
消費者 物価指数 (CPI)	108.2	109.2	109.7	110.4	111.1	112.2	112.9	113.1	114.0	115.8	116.8	117.6
前月比	0.5	1.0	0.5	0.6	0.7	1.0	0.6	0.2	0.8	1.8	1.0	0.8
前年 同月比	16.0	15.4	14.7	14.5	14.9	14.8	15.0	14.4	14.0	13.0	11.3	9.8

(注1)消費者物価指数(CPI)は2012年初を100とする。

(注2)前月比、前年同月比は上昇幅(ポイント)。

(出所)国家統計局月報

(表2)品目別の消費者物価指数(CPI)上昇幅 (単位:ポイント)

品目名	前年同月比		前月比	
	2月	3月	2月	3月
食料品	13.0	7.8	3.0	1.8
アルコール・タバコ	53.4	50.4	0.4	0.2
被服および履物	13.7	13.4	0.4	0.5
住居・水道	10.6	11.1	Δ1.0	Δ 0.4
家具・日用品	9.0	9.6	0.5	1.0
保健医療	7.1	8.2	0.3	1.9
交通・輸送	2.9	3.2	0.2	0.3
郵便・通信	Δ3.9	Δ 1.0	Δ0.1	0.0
娯楽	3.3	0.9	Δ0.1	0.0
教育	15.2	15.2	0.0	0.0
レストラン・ホテル	14.8	15.5	0.2	1.9
その他の商品・サービス	6.2	6.1	0.2	0.8

(出所)国家統計局月報

②【マネーサプライ】M2は前年同期比 19.5%増

3月末時点の通貨供給量(M2)は前年同期比 19.5%増(前月比 0.8%増)の7兆2,937億トゥグルクだった(表3、図2参照)。

(表3)マネーサプライの推移 (単位:億トゥグルク、%)

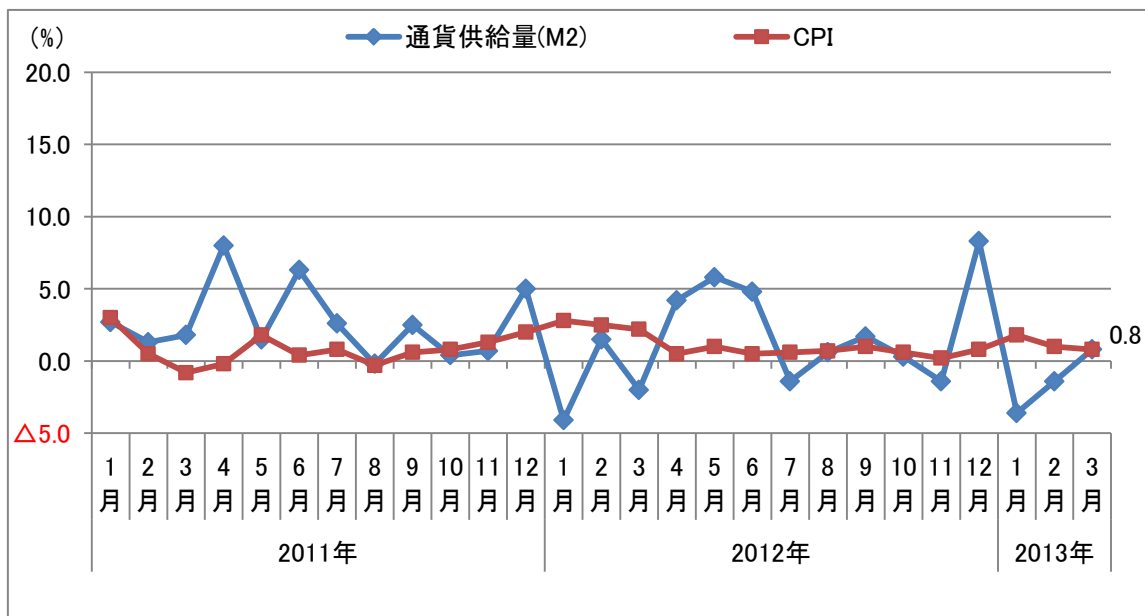
	2012年3月末	2013年2月末	2013年3月末
通貨供給量(M2)	61,048	72,380	72,937
前年同期比	23.2	16.0	19.5
前月比	Δ2.1	Δ1.4	0.8
総預金	37,463	49,537	48,801
前年同期比	19.6	24.0	30.3
前月比	Δ6.2	0.4	Δ1.5
トゥグルク預金	29,807	36,964	36,925
前年同期比	27.5	23.4	23.9
前月比	Δ0.5	2.6	Δ0.1
外貨預金	7,656	12,573	11,876
前年同期比	Δ3.5	25.8	55.1
前月比	Δ23.4	Δ5.6	Δ5.5

(出所)国家統計局月報

なお、総預金は前年同期比 30.3%増（前月比 1.5%減）の 4 兆 8,801 億トウグルク、
トウグルク預金は前年同期比 23.9%増（前月比 0.1%減）の 3 兆 6,925 億トウグルク、
外貨預金は前年同期比 55.1%増（前月比 5.5%減）の 1 兆 1,876 億トウグルクだった。

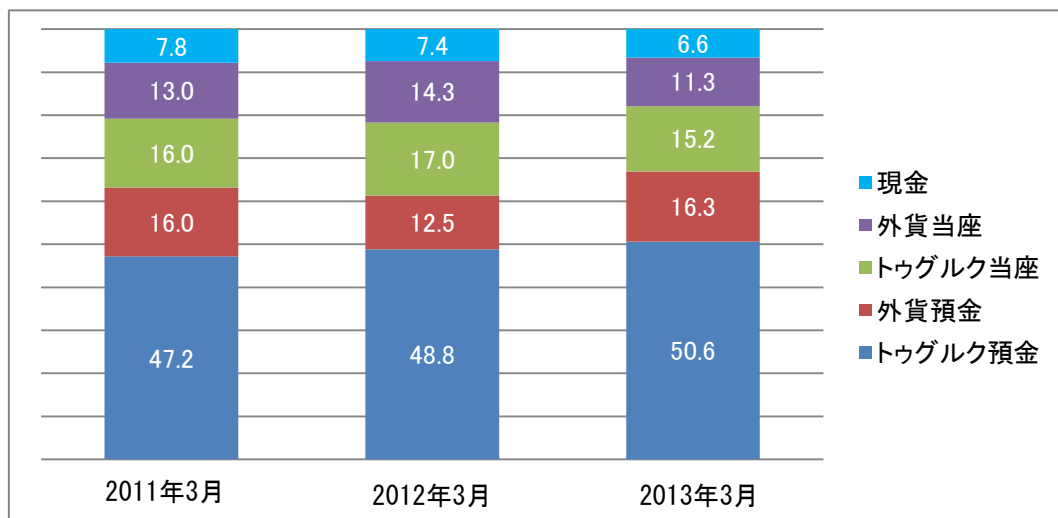
マネーサプライの構成比は、トウグルク預金が 50.6%、外貨預金が 16.3%、トウグルク当座が 15.2%、外貨当座が 11.3%、現金が 6.6%だった。前年同期比で、トウグルク預金は 1.8 ポイント、外貨預金は 3.8 ポイント増加し、トウグルク当座は 1.8 ポイント、外貨当座は 3.0 ポイント、現金は 0.8 ポイント減少した（図 3 参照）。

（図2）貨幣供給量(M2)と消費者物価指数(CPI)の前月比伸び率 （単位：％）



（出所）国家統計局月報

（図3）マネーサプライの構成比 （単位：％）



（出所）国家統計局月報

③【貸付残高】貸付残高は前年同期比 27.7%増、不良債権残高は同 3.6%減

3月末時点の貸付残高は前年同期比 27.7%増（前月比 3.0%増）の 7 兆 3,836 億トゥグルクだった（表 4 参照）。

貸付先ごとにみると、民間セクターに 3 兆 9,614 億トゥグルク（構成比 53.7%）、個人に 3 兆 3,690 億トゥグルク（同 45.6%）、公的機関に 317 億トゥグルク（同 0.4%）、金融機関に 115 億トゥグルク（同 0.2%）、その他の機関に 100 億トゥグルク（同 0.1%）がそれぞれ貸し出されている。なお、企業、個人向け融資の 67.0%はハーン銀行、ゴロムト銀行、貿易開発銀行の 3 行が占めている。

不良債権残高は、前年同期比 3.6%減（前月比 0.9%増）の 3,086 億トゥグルクだった（図 4 参照）。不良債権比率は 4.2%と、前年同期比で 1.3 ポイント、前月比で 0.1 ポイント減少した。

期限超過債権残高は前年同期比 62.7%増（前月比 9.9%減）の 999 億トゥグルクだった。期限超過債権比率は 1.4%と、前年同期比で 0.3 ポイント増加し、前月比では 0.1 ポイント減少した。

なお、市中銀行の総資産は前年同期比 34.1%増（前月比 3.0%増）の 11 兆 7,000 億トゥグルクだった。

（表 4）貸付残高の推移

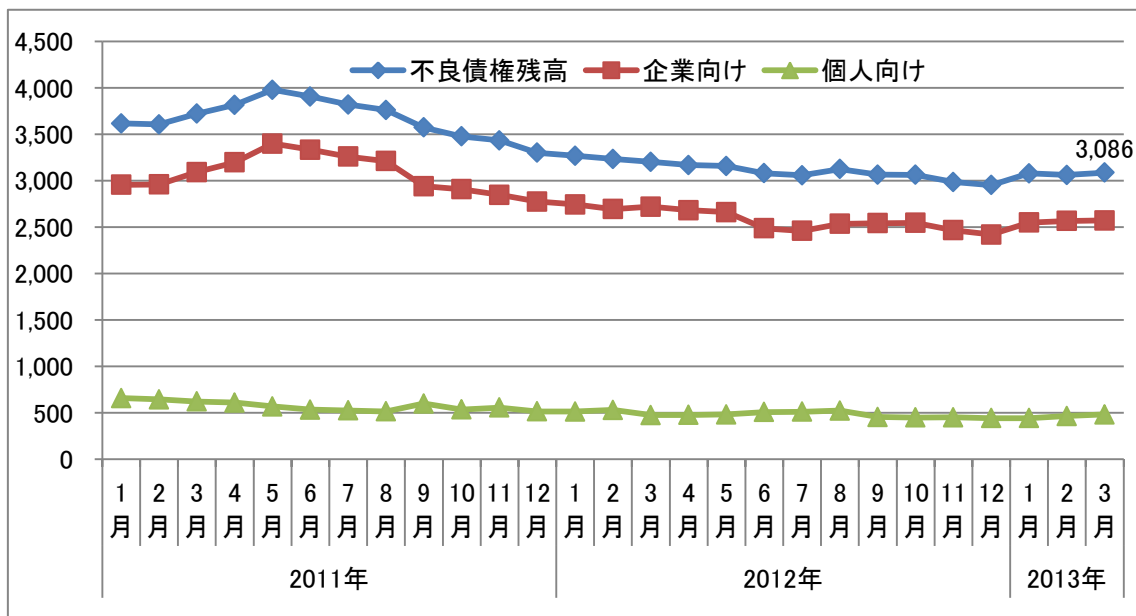
（単位：億トゥグルク、%）

	2012 年 3 月	2013 年 2 月	2013 年 3 月
貸付残高	57,815	71,685	73,836
前年同期比	55.0	25.6	27.7
前月比	1.3	0.4	3.0
不良債権残高	3,202	3,059	3,086
前年同期比	Δ13.9	Δ5.4	Δ3.6
前月比	Δ1.0	Δ0.4	0.9
期限超過債権残高	614	1,109	999
前年同期比	Δ23.7	81.2	62.7
前月比	0.3	4.8	Δ9.9
不良債権比率	5.5	4.3	4.2
期限超過債権比率	1.1	1.5	1.4

（出所）国家統計局月報

(図4)不良債権残高の推移

(単位:億トゥグルク)



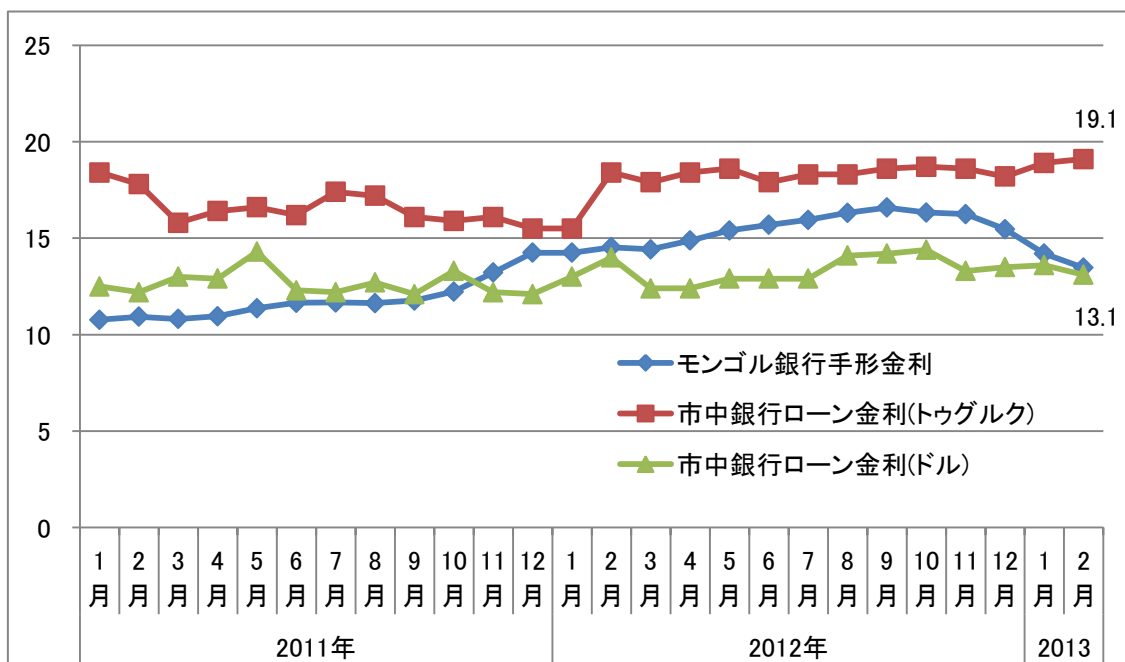
(出所)国家統計局月報

④【金利】トゥグルク金利は前月比 0.2 ポイント上昇の 19.1%

2013 年 2 月末時点の銀行ローン金利 (年利) は、トゥグルクが前月比 0.2 ポイント上昇 (前年同月比 0.7 ポイント上昇) の 19.1%、ドルは前月比 0.5 ポイント低下 (前年同月比 0.9 ポイント低下) の 13.1%だった (図 5 参照)。

(図5)銀行ローン金利の推移(年利)

(単位:%)



(出所)国家統計局月報

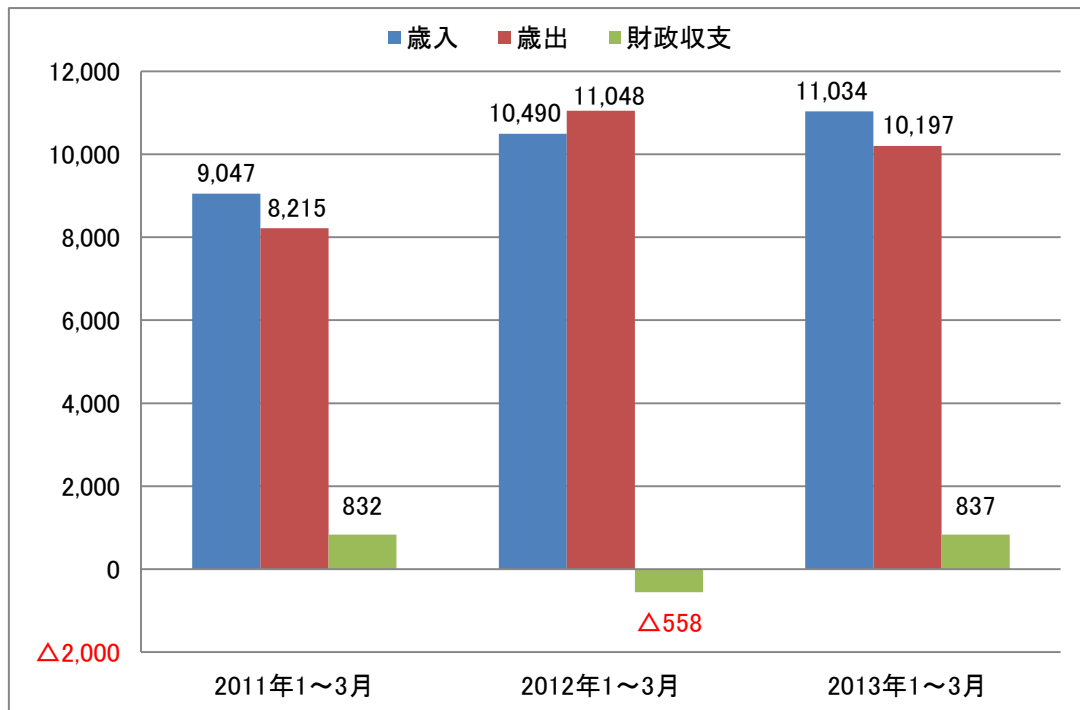
⑤【財政収支】1～3月の財政収支は 837 億トゥグルクの黒字

1～3月の歳入および外国からの援助は前年同期比 5.2%増の 1 兆 1,034 億トゥグルク、歳出および返済は同 7.7%減の 1 兆 197 億トゥグルク、財政収支は 837 億トゥグルクの黒字だった（図 6 参照）。

歳入および外国からの援助の内訳をみると、税金が 87.9%（前年同期比 0.7 ポイント減）、税以外の収入が 10.8%（同 0.4 ポイント増）、財政安定化基金からの収入が 1.3%（同 0.5 ポイント増）、資産からの収入が 0.0%（同 0.2 ポイント減）を占めた。

（図6）財政収支の状況

（単位：億トゥグルク）



（出所）国家統計局月報

(2)貿易・投資

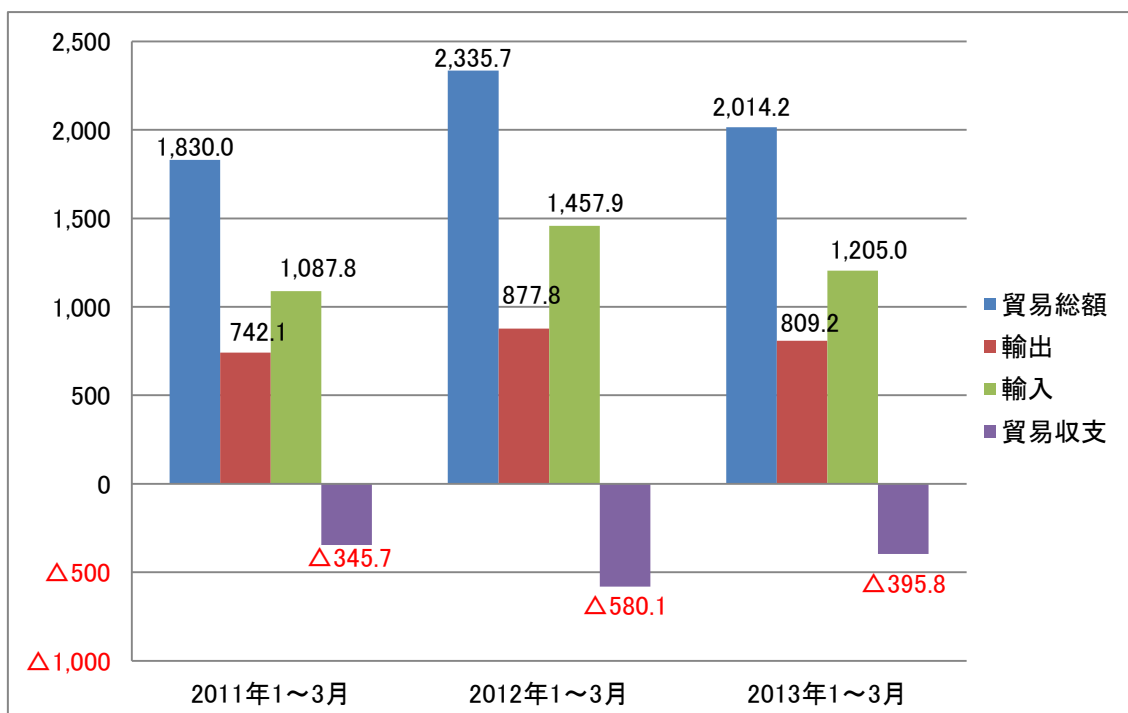
①【貿易統計】1～3月の貿易収支は3億 9,580 万ドルの赤字

1～3月のモンゴルの貿易総額は前年同期比 13.8%減の 20 億 1,420 万ドル、うち輸出は同 7.8%減の 8 億 920 万ドル、輸入は同 17.3%減の 12 億 500 万ドルだった。貿易収支は 3 億 9,580 万ドルの赤字となった（図 7 参照）。

貿易相手先は 104 カ国・地域にのぼった。シェアを見ると、中国が 47.4%（前年同期比 0.6 ポイント減）、ロシアが 17.9%（同 2.2 ポイント減）、その他が 34.7%（同 2.8 ポイント増）を占めた。

(図7)貿易額および貿易収支の推移

(単位:100 万ドル)



(出所)国家統計局月報

<輸出の 88.9%が中国向け>

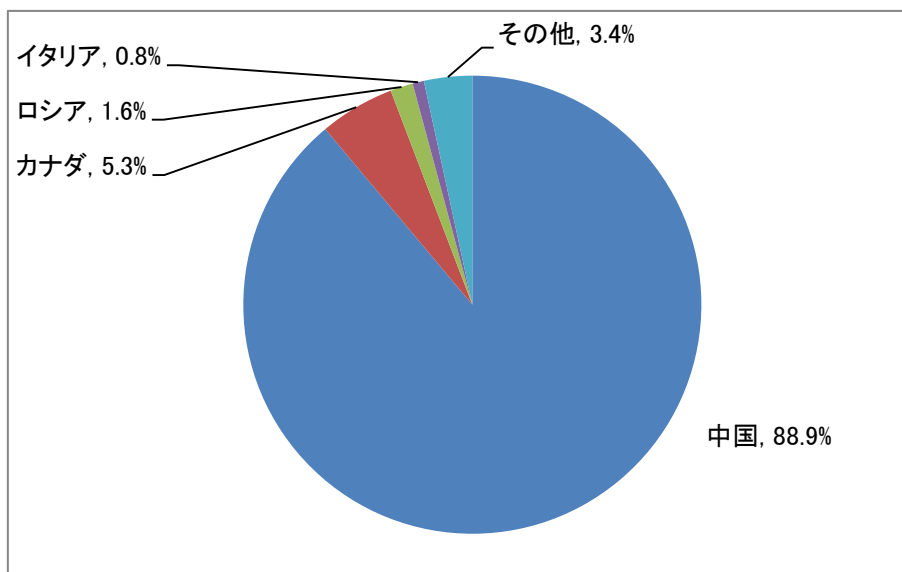
輸出相手先は 43 カ国・地域にのぼる。輸出総額に占めるシェアは、中国が 88.9%、カナダが 5.3%、ロシアが 1.6%、イタリアが 0.8%、その他が 3.4%だった（図 8 参照）。

主要輸出品目は、鉱物資源・同製品、宝石・貴金属、テキスタイル、皮革・毛皮原料などで、これら 4 品目が輸出総額の 96.1%を占める（表 5 参照）。

このうち鉱物製品の内訳をみると、粗銅が 25.9%（前年同期比 3.3 ポイント増）、石炭が 25.9%（同 16.0 ポイント減）、鉄鉱石が 15.6%（同 3.3 ポイント増）、原油が 11.6%（同 3.0 ポイント増）、未精錬または半精錬の金が 5.3%（同 2.9 ポイント増）、亜鉛鉱石が 5.3%（同 1.8 ポイント増）、螢石が 1.9%（同 0.3 ポイント減）、その他の製品が 8.5%となっている。なお、数量ベースの輸出量は表 6 に示した通りである。

(図8)輸出相手先のシェア

(単位: %)



(出所) 国家統計局月報

(表5)輸出総額に占める品目別のシェア

(単位: %)

	2011 年 1 ～ 3 月	2012 年 1 ～ 3 月	2013 年 1 ～ 3 月
鉱物資源・同製品	88.9	92.3	87.4
宝石・貴金属	4.4	2.4	5.3
テキスタイル	2.0	1.7	1.6
皮革・毛皮原料	1.7	1.3	1.8
その他	3.0	2.3	3.9

(出所) 国家統計局月報

(表6) 鉱物製品の輸出货量 (数量ベース) (単位: 1,000 トン、金はトン、原油は 1,000 バレル)

	2011 年 1 ～ 3 月	2012 年 1 ～ 3 月	2013 年 1 ～ 3 月
石炭	2,943.5	3,400.8	3,445.2
鉄鉱石	909.9	1,478.6	1,121.6
原油	498.4	750.2	982.0
粗銅	138.1	140.1	140.0
蛍石	89.5	88.7	64.1
亜鉛鉱石	40.0	31.5	42.1
金 (未精錬・半精錬)	0.8	0.5	1.0
その他	1.6	1.6	1.6

(出所) 国家統計局月報

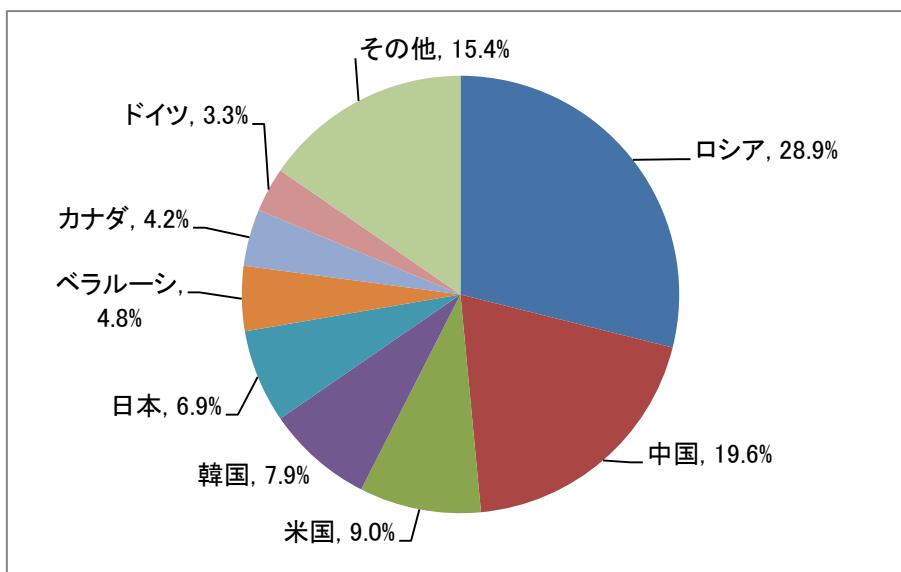
＜輸入の約半分をロシア、中国に依存＞

輸入相手先は102カ国・地域にのぼる。輸入総額に占めるシェアは、ロシアが28.9%、中国が19.6%、米国が9.0%、韓国が7.9%、日本が6.9%、ベラルーシが4.8%、カナダが4.2%、ドイツが3.3%、その他が15.4%だった（図9参照）。

輸入総額に占める品目別のシェアは、鉱物製品が30.1%、機械設備・電機製品および同部品が22.3%、自動車・航空機および同部品が17.2%、食品が6.5%、その他の製品が23.9%だった（図10参照）。

（図9）輸入相手先のシェア

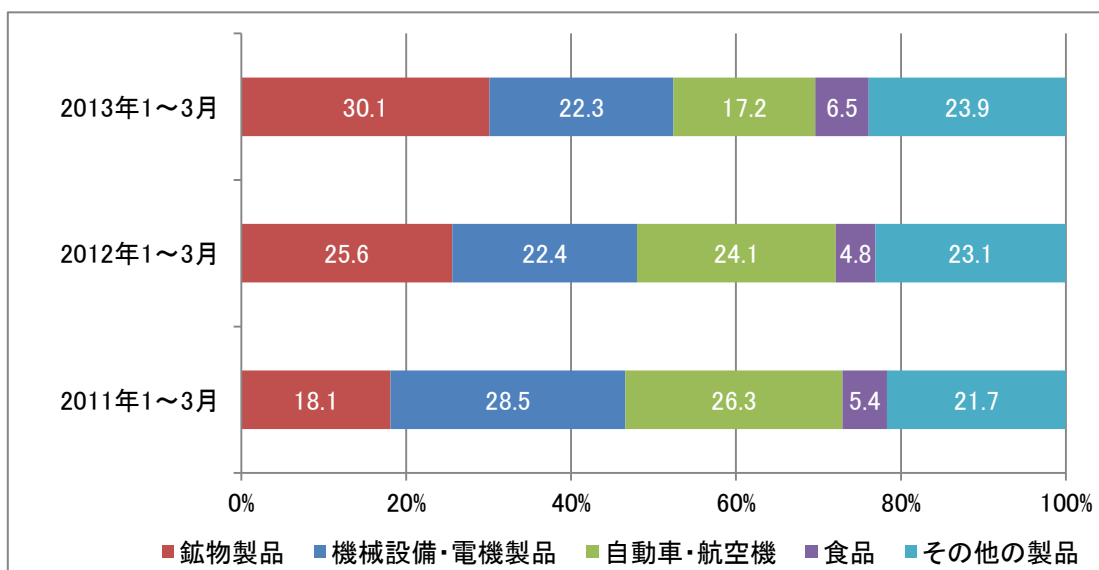
（単位：％）



（出所）国家統計局月報

（図10）輸入総額に占める品目別のシェア

（単位：％）



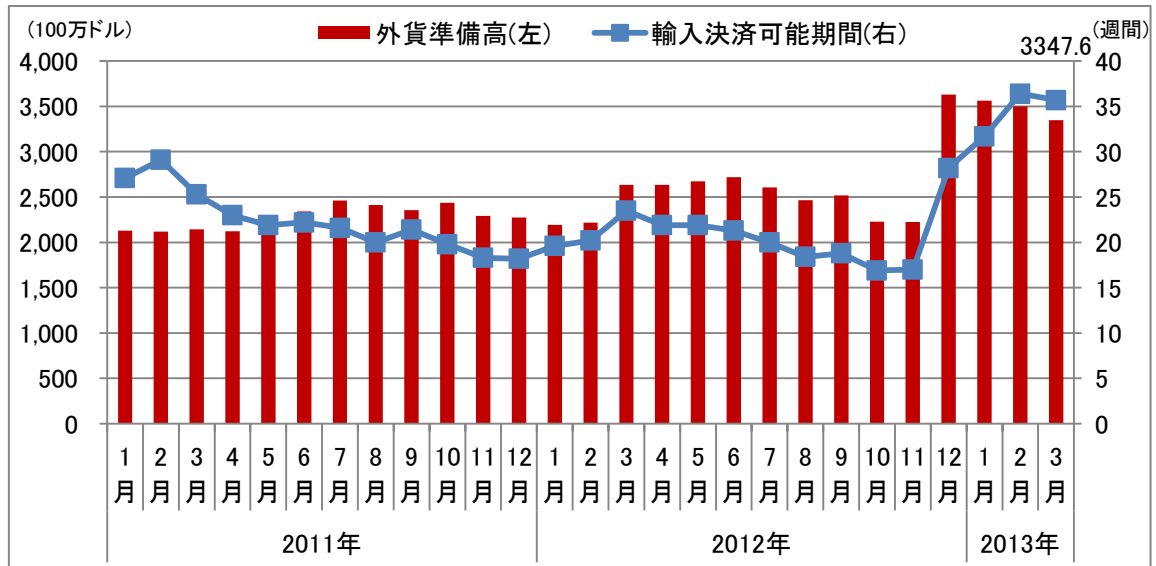
（出所）国家統計局月報

②【外貨準備高】外貨準備高は 33 億 4,760 万ドル

3 月末時点の外貨準備高は、前年同期比 7 億 1,440 万ドル増、前月比 1 億 5,210 万ドル減の 33 億 4,760 万ドルとなった。これは、モンゴルの輸入決済の 8.9 カ月分 (35.7 週間分) の金額にあたる (図 11 参照)。

(図 11) 外貨準備高の推移

(左軸: 外貨準備高、右軸: 決済可能期間)



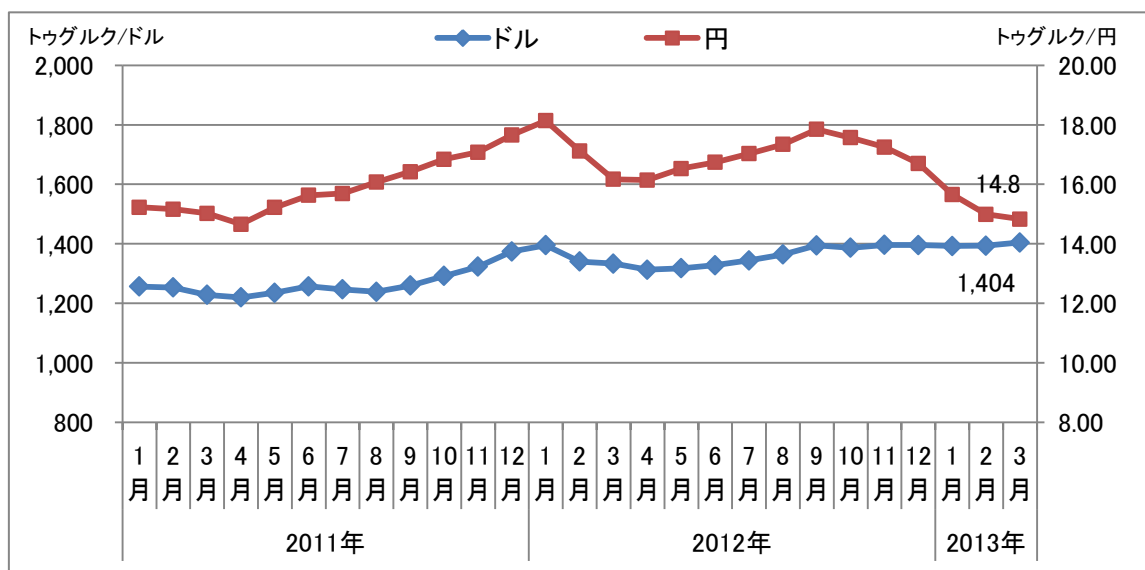
(出所) 国家統計局月報

③【為替】対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高

3 月の期中平均レートは、対ドルは 1,404 トゥグルク、対円は 14.8 トゥグルクだった。前月に比べ、対ドルでトゥグルク安、対円でトゥグルク高となった (図 12 参照)。

(図 12) 為替レートの推移

(左軸: 対ドル、右軸: 対円)



(出所) モンゴル銀行

(3)産業

①【企業登記件数】前年同期比 21.6%増の9万 2,442 社

2013年3月末時点の企業登記件数は9万 2,442社で、このうち5万 836社(55.0%)が実際に事業を行っている。企業登記件数は前年同期比1万 6,403社(21.6%)増加、うち事業を行っている企業は1,024社(2.1%)増加した。

事業を行っている企業を地域別にみると、ウランバートル市で3万 1,507社(構成比 62.0%)、中部地方で6,675社(同 13.1%)、ハンガイ地方で5,505社(同 10.8%)、西部地方で5,035社(同 9.9%)、東部地方で2,114社(同 4.2%)が登録されている。従業員数別にみると、「1～9人」が83.5%、「10～19人」が7.3%、「20～49人」が5.5%、50人以上が3.7%を占めている。

なお、3月末時点で登記されているものの、事業を行っていない4万 1,606社のうち、「一時中断」が2万 3,173社(構成比 55.7%)、「まだ事業が始まっていない」が1万 1,050社(同 26.6%)、「住所不明または見つからない」が6,659社(同 16.0%)、「事業停止」が724社(同 1.7%)であった。

②【不動産】ウランバートル市中心部のアパート価格は前年同期比 13.8%上昇

1～3月のウランバートル市中心部の6つの区におけるアパート価格は、前年同期比で13.8%上昇した。

アパート価格を区ごとにみると、ソングノハイルハン区が19.4%、バヤンゴル区が16.2%、チンゲルテイ区が13.5%、ハンオール区が11.2%、スフバートル区が10.4%、バヤンズルフ区が9.9%、それぞれ前年同期比で上昇した。築年数別にみると、「1970年以前築」が7.4～24.1%、「1970～2001年築」が8.8～18.4%、「2002年以降築」が6.1～26.7%、それぞれ前年同期比で上昇した。

③【建設業】建設・改修業務の受注額(速報値)は前年同期比 18.7%増

1～3月の建設・改修業務の受注額(速報値)は、前年同期比18.7%増の274億トゥグルクだった。このうち、国内企業の受注額は同15.7%増の266億トゥグルク(構成比 97.1%)、外国企業の受注額は同7.8倍の8億トゥグルク(同 2.9%)だった。

受注業務の内訳をみると、アパート建設が33.5%(前年同期比 20.2ポイント増)、オフィス・店舗ビル建設が33.2%(同 6.1ポイント減)、施設建設が24.6%(同 12.3ポイント減)、改修工事が8.7%(同 1.8ポイント減)を占めた。

④【通信業】売上は前年同期比 7.2%増

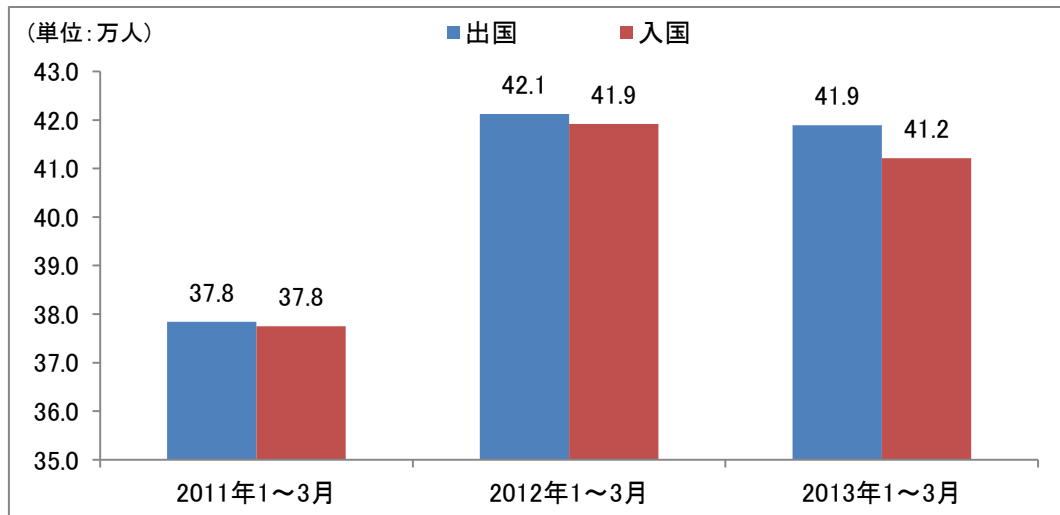
1～3月の通信業界の売上総額は前年同期比7.2%増の1,313億トゥグルクだった。固定電話の加入者数は同14.7%増の15万 1,300回線、携帯電話の加入者数は同16.2%増の351万 6,700回線、ケーブルテレビの加入者数は同48.0%増の25万 6,500回線となった。

⑤【出入国者数】前年同期比 1.1%減の 83 万 1,000 人

1 ～ 3 月の出国者数は前年同期比 0.5%減の 41 万 8,900 人（延べ人数、以下同様）、入国者数は同 1.7%減の 41 万 2,100 人、出入国者総数は同 1.1%減の 83 万 1,000 人だった（図 14 参照）。

（図 14）出入国者数の推移

（単位：万人）



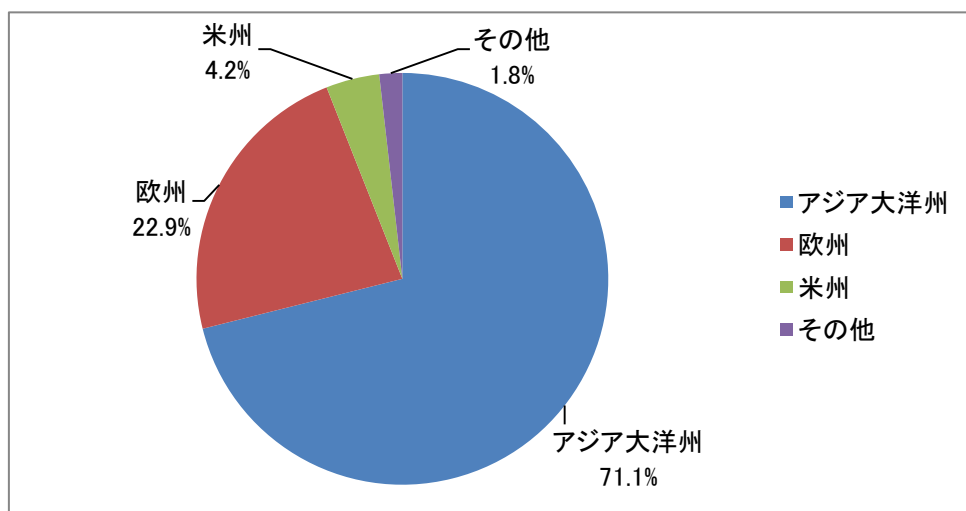
（出所）国家統計局月報

同期間にモンゴルを訪れた外国人は前年同期比 23.4%減の 7 万 6,100 人だった。

地域別では、アジア大洋州からの入国者が全体の 71.1%を占め、次いで欧州が 22.9%、米州が 4.2%、その他が 1.8%だった（図 15 参照）。国籍別では、中国人が 53.7%、ロシア人が 17.1%、韓国人が 7.6%、米国人が 3.1%、日本人が 2.8%、その他の国籍が 15.7%を占めた。

（図 15）モンゴルへ入国した外国人の地域別シェア

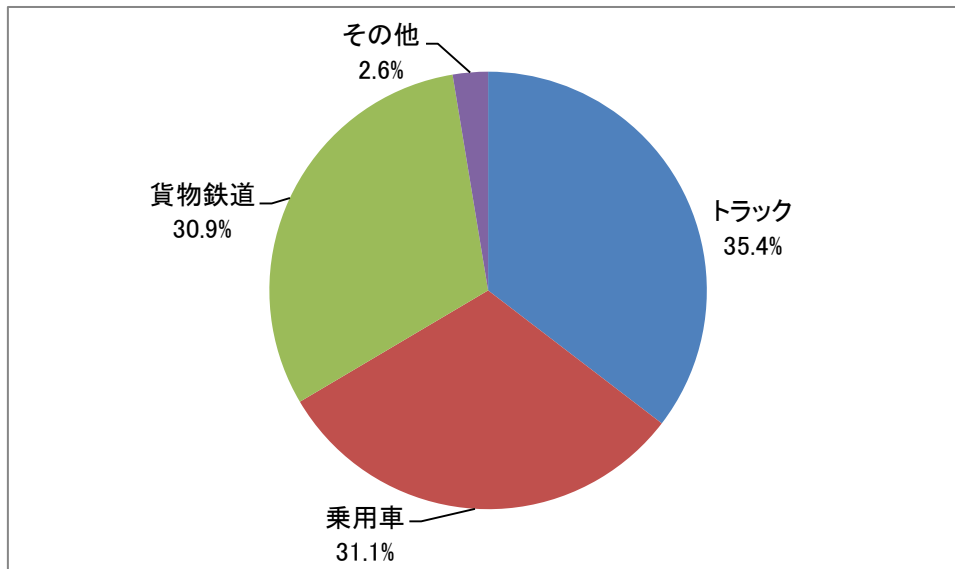
（単位：%）



（出所）国家統計局月報

同期間の交通機関の入国回数は、前年同期比 10.1%減の延べ 32 万 3,500 回であった。うちトラックが 35.4%、乗用車が 31.1%、貨物鉄道が 30.9%、その他の交通機関が 2.6% を占めた（図 16 参照）。

（図 16）総入国回数に占める交通機関別のシェア （単位：%）



（出所）国家統計局月報

3. 社会動向

(1) 社会統計

①【人口増加】1,000 人当たりの人口純増は 5.3 人

1～3 月の出産件数は 1 万 8,872 件、実際に出生した人数は 1 万 8,952 人だった。
1,000 人当たりの出生者数は 6.8 人、死亡者数は 1.5 人、純増は 5.3 人であった。

②【社会保険・社会福祉】社会保険支出は前年同期比 72.4%増

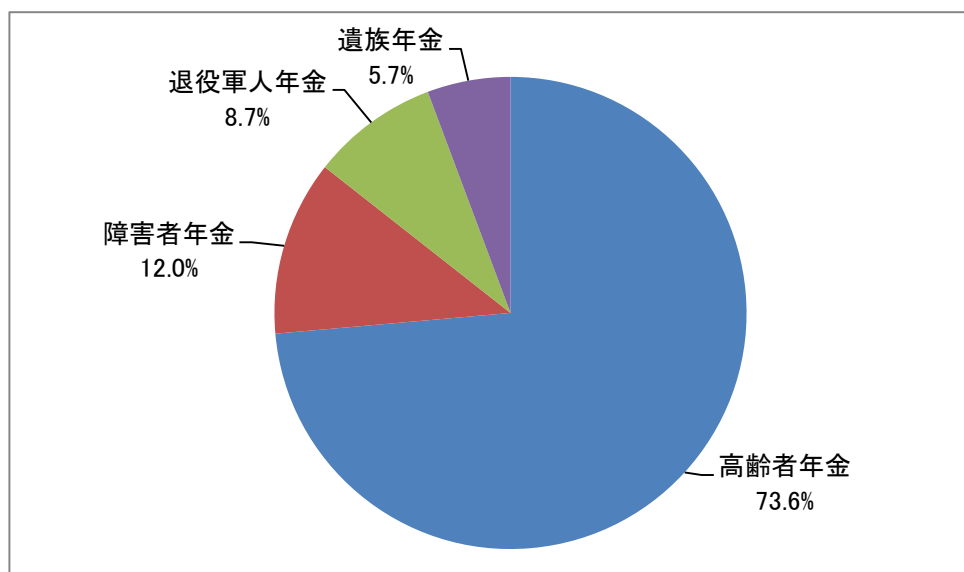
1～3 月の社会保険基金収入は前年同期比 38.9%増の 3,079 億トウグルク、支出は同 72.4%増の 2,700 億トウグルクだった。

社会保険基金から支給された年金のうち、高齢者年金が 73.6%、障害者年金が 12.0%、退役軍人年金が 8.7%、遺族年金が 5.7%を占めた（図 17 参照）。

なお、同期間における新規の社会保険加入者数は 53 万 8,400 人、うち企業加入者が 64.1%、公務員加入者が 35.9%を占めた。前年同期比では、加入者総数が 10.4%、企業加入者が 12.4%、公務員加入者が 7.0%、それぞれ増加した。

（図 17）年金支給の内訳

（単位：%）



（出所）国家統計局月報

4. 2013 年6～9月の予定

- | | |
|-------------|--|
| 6 月 1 日 | 子供の日（祝日） |
| 6 月 4 日 | Mongolia Renewable Energy & Green Development
（於・Blue Sky Tower & State House、ウランバートル） |
| 6 月 4～5 日 | Coal Processing and Mining Technology Mongolia
（於・Misheel Expo Center、ウランバートル） |
| 6 月 7～11 日 | National ICT Conference & EXPO 2013
（於・National Exhibition and Convention Centre Exhibition Hall、
ウランバートル） |
| 6 月 7～11 日 | SME's product, service & technology 2013 International Trade fair
（於・Misheel Expo Center、ウランバートル） |
| 6 月 13～14 日 | Construct Mongolia
（於・Chinggis Khaan Hotel、ウランバートル） |
| 6 月 17～18 日 | 2013 Mongolia Energy + Creativity
（於・Blue Sky Tower、ウランバートル） |
| 6 月 19～22 日 | Future Mongolia 2013
（於・Buyant Ukhaa Sport Complex、ウランバートル） |
| 6 月 25～26 日 | 第3回 Coal Trans Mongolia
（於・Blue Sky Tower、ウランバートル） |
| 7 月 11～13 日 | ナーダム祭り（祝日） |
| 9 月 2 日 | Green Mongolia 2013
（於・Blue Sky Tower、ウランバートル） |
| 9 月 3～4 日 | Invest Mongolia 2013
（於・Blue Sky Tower、ウランバートル） |
| 9 月 12～16 日 | Ulaanbaatar Partnership International Trade Fair 2013
（於・Misheel Expo Center、ウランバートル） |